



神戸市 電話40年1月20日発行 印刷通巻58号 昭和41年1月15日発行 毎月1回15日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

1

RK0155

magazine kobekko january 1966 no. 58

年の始めの装いに
ミキモトパール



日本が世界に誇る唯一の宝石
ミキモトパールは
あなたの装いの総仕上げをします
あらゆる宝石の中で
ミキモトパールほど優雅で気品の
高いものはないでしょう



御木本真珠店

神戸店=三ノ宮・神戸国際会館 Tel. 22-0062
大阪支店=堂島・新大ビル Tel. 363-0247
ミキモトパール取扱いデパート 大阪=高島屋・阪神

あけまして
おめでとう
ございます



迎春

ひやくの年にあたりより充実した逸品を
みなさまにご満足いただけるようつとめ
ます。本年もよろしくお引立ください。



Gross

トランスグローバル特約店
トア・ロード ③ 0998



神戸っ子アングル

矢口 徳代

〈生田神社巫子〉

生田神社は大変ハイカラな神戸らしい神様だ。凡そ神社の舞いは雅楽伴奏が昔からのしきたりだが竹内平吉作曲のユーロピアン・ミュージックをもって「生田の舞」を制作。昨年の秋祭りに奏納された。矢口徳代さんは伊勢神宮で神楽舞を四年間修めた十九才の清楚な乙女。初めピアノが入るこの舞いに驚いたそう。藤間小勤二さんの振付で烏帽子に菊の花を飾って舞う。「あき風に又こそとはめ津の国の生田のもりの春のあけぼの」順徳天皇の御歌が女性コーラスで本殿いっぱいひろがる。

〈生田神社にて〉

カメラ / 春田佳章・書 / 山路 梓



Pearls by Tasaki
1966

あけまして
おめでとう
ございます

田崎真珠

三宮店・新聞会館秀品店内
ニューポート店・ニューポートホテル内
東京・銀座店 ヒルトンホテル内
オータニホテル店 羽田・東急ホテル店
札幌・ホテル三愛店





舞
子

神戸っ子アングル

花柳 芳五郎

〈邦舞家〉

カメラ / 春田佳章・書 / 山路 粹

〽初春や四方に目出度なき三番叟
清元「名寄舞」を舞う芳五郎師の姿。寒い正月の稽古場に緊張感がみなぎ
る。ここ、花隈の稽古場は流石に、芸者衆も多く、どこか華やいだ匂いが
たちこめている。

相生町生れの神戸っ子。7才のときに東京にいた花柳芳次郎師に弟子入
り舞踊生活50年のベテランである「踊りとは、女房よりも古いつきあい
です。私は日本舞踊を楽しくお客さまに見ていただきたいというのが、念願
です。狭いワクの中にとじこめるのでなく、皆んなに愛される踊りにと、
孫悟空や源氏物語などの新作にもとり組みました。ことは、長谷川幸延
先生とご相談して、黒衣の生き方にスポットをあてて見たいと思います。
それにしても、最近の後見はなっていない。考へて見ると可哀そうです。
いまの若い人は自分の生活にまぎれ追われるのですから」意欲的な師の言葉
の中に若い人への苦言と同情がある。あぶらの乗り切った舞いに決さの加
った舞台を今年も見せてもらえそう。

《花隈の自宅にて》

謹賀新年



メルセデスベンツ / フォルクスワーゲン / ボルボ / キャデラック / ビュイック / ボクスホール



神戸ヤナセ株式会社 神戸市東灘区磯上通5丁目1
TEL 〈23〉 5401-4



声楽家グループ「ローゼン・クランツ」のメンバーが活動をはじめて十年になる。

「ローゼン・クランツ」とはバラの花輪という意味。

花は仲良く手をつなぎあって咲くという。名附けた市来崎のり子さん（声楽家）

はこのグループの育ての親。ここ数年はモーツァルト・

シリーズにとりくんで成果をあげ、確固とした基礎づ

くりを地道につみかさねてきた。

「今年は十回記念なのでオペラをやりたい」というメンバーの熱意が瞳のそこに

みなぎっているようだ。バラの花がひとひらひとひ

ら色づき咲くのが楽しみなグループである。

写真左より

松本 幸三
（二期会関西支部テノール）

柳井 弘子
（二期会関西支部ソプラノ）

石川 恵子
（二期会関西支部ソプラノ）

湊 夫美子
（二期会関西支部ソプラノ）

小松 恵子
（二期会関西支部ソプラノ）

林 久美子
（関西歌劇団・植物の女性
コロトラ・ソプラノ）

池 本道子
（二期会関西支部アルト）

十六頁をご覧ください

あけまして
おめでとう
ございます



さんちか * レディスタウン * TEL 39-3886~7

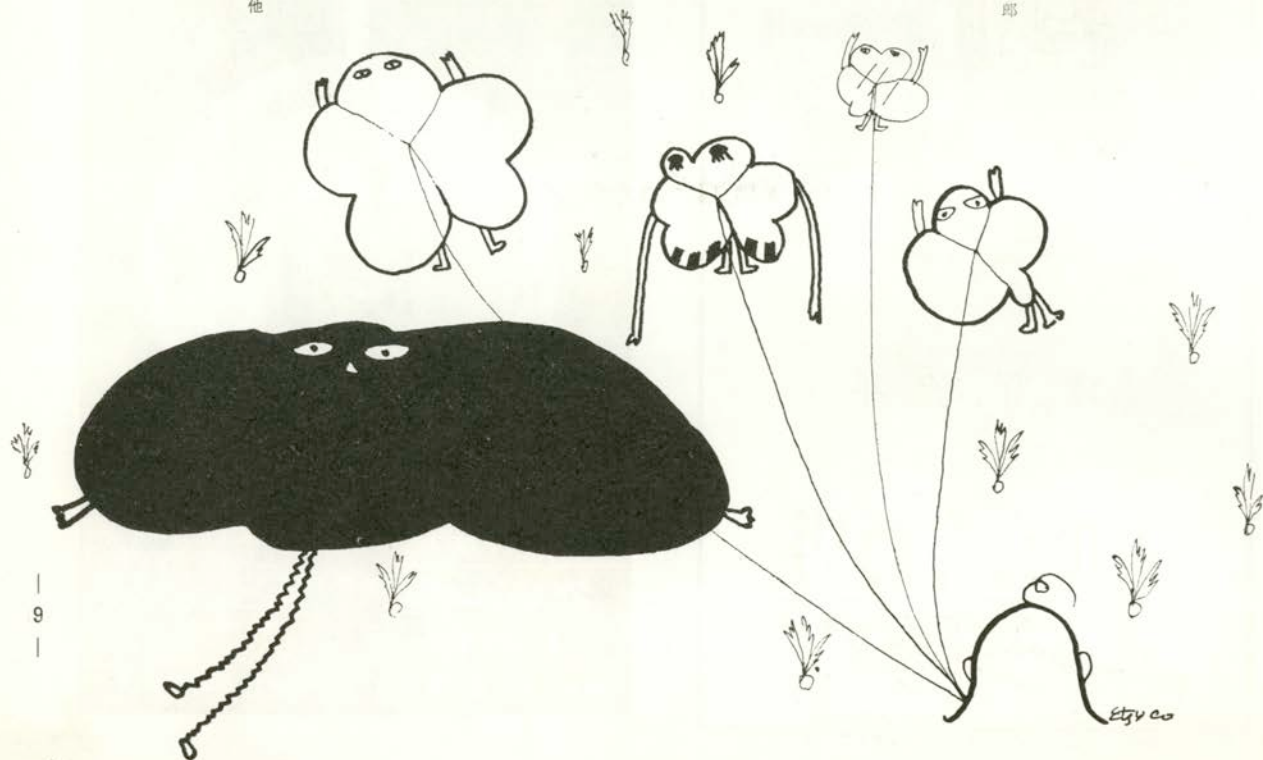


ム・ラタ

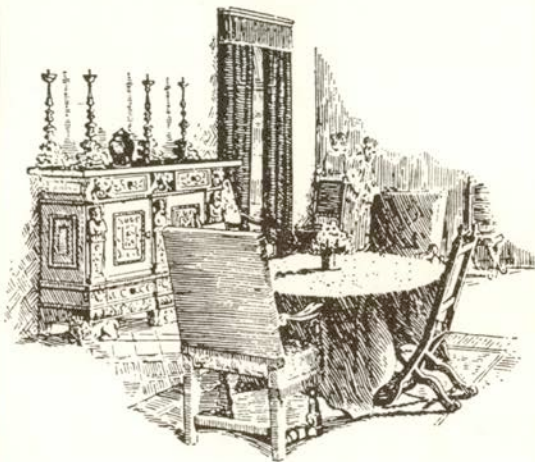
村田 * 真珠 / 銀座山岡 * 毛皮 / マリークリステン * 舶来服飾
本社 神戸市生田区山本通 4-97 * TEL 23-1212-6

月号目次

3	1	Second Cover 津高和一
7	12	クラビア・神戸・子安高ル・境彰・ 春田佳章・矢口蓮代・花柳芳五郎・ グラビア／ある集い・「ローゼン・クラント」 わたしの意見／赤川誠一
11	11	随想三題／私と馬のつき合い／岡崎陽子
16	19	神戸は恋びと／山路祥・この町の女／直木太一郎
21	23	ある集い／その足あと／池本道子
27	31	随想／人生の街角／今田 恵
33	39	随想／宝塚通信・京都仲夫
40	42	随想／夢の初夢／鴨居羊子
44	47	神戸／子新香放談
50	52	金井兵衛重知事・牛尾吉明・鳥越浩
55	59	経済ポククトジャーナル
60	64	神戸ドキュメント①
66	69	麻葉基地・田中忠雄
76	81	神戸の集いから
82	86	映画のご手当り次第⑤／淀川長治
88	94	コンニチワ治長さん⑥／きく人／玉奥 章
94	104	津高和一「美と生理」／足立巻一
104	110	KOBE YOUNG JOURNAL.
110	112	THE DOORMAN of ORIENTAL
112	116	HOTEL W
116	120	マドモアゼル神戸／瀧富芳美
120	124	髪とアクセサリー／西野明
124	128	髪とアクセサリー／佐藤昭年
128	132	移しのバラエティ② ワイシャツ
132	136	座談会／藤木高壽氏を囲んで
136	140	秘録千夜一夜アラビヤ・ニューギニア・
140	144	カナダエスキモー
144	148	ピンクコーナー(T)
148	152	れんさいマンガ①ベッコ／永井文明
152	156	神戸遊談誌④／スケート①／青木重雄
156	160	神戸うまいもん巡礼④
160	164	神戸入門⑤／竹田洋太郎
164	168	ボケットジャーナル
168	172	異人館物語第一話②モルガンお雪／小山牧子
172	176	座談会 神戸夫人の作者を囲んで／武田繁太郎他
176	180	グラビア／酒徒父遺録・津高和一
180	184	グラビア／幻想の神戸・緒方しげを
184	188	クラビア／神戸銘店抄・陳 舞臣
188	192	表紙／小磯良平・カメラ／米田定藏
192	196	レイアウト／中辻悦子



家具・室内装飾・工芸品



謹賀新年

永田良介商店

大丸前 TEL { ③9 3 7 3 7
3 7 3 9 }



をきの
菓子菓
のツの
いとる
憩ひ飾
風伝

パウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・克蘭ツ



ドイツ菓子

Faehheim's

ユ-ハイム

本店 神戸三宮生田神社前
TEL (33) 1694・8064
三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL (33) 2101 (39) 3808
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン
TEL (39) 3 5 3 9

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

神戸港にも

緑を

＊わたしの意見

赤川 誠一

読売新聞社神戸支局長



この「神戸っ子」などでよく語られている神戸の印象は「山あり、海あり、町にはしゃれた衣料があふれ、世界中の食べものがある。まったく住みよい、魅力のある町」ということになっているが、私も完全に同感である。神戸へ来たのは昨年の十一月だが、実は転勤の辞令を貰ったとき、私は内心「しめた」と思ったものだ。というのは、大阪にいてときどき遊びに来ていた六甲や三宮、元町付近の魅力がすっかり私をとらえていたからだ。転勤以来、私は毎朝阪急六甲付近から六甲山をみながら出勤する。青空にくっきり山の姿が浮かんでいる日は一日中爽快に仕事ができる。電車の中で山と海ばかり見ているおかげで、車内の人に気づかず失礼してしまうこともある。日曜にはテクテク登山したり、三宮付近のぶらぶら歩き、適度の便利さと適度の人出が何ともいい。『右へならえ』式感想で恐縮だが、当分神戸から動きたくないところである。

しかし用事があって国電などで元町以西に行くと、私の「魅力のとりこ」も大分あやしくなる。電車の窓下に広がる灰色の小さな屋根の連続。すっかりくすんで救いのない町並み。それに屋根の上に突き出した看板の波。屋根の上に棒で突っかいをして、裏から見るとスカートを前半分しかしていないような気はさささえ感じるこの町もおいおい美しくなっていくようだが、早く大橋地区のようなモデル建築がゆきわたってくれないかと思う。あの看板も法規制はむずかしいだろうが、美しい町の稜線を作るため、当局も市民ももっと考えられないものだろうか。それに港付近のうるおいのなさ、横浜が神戸より明るい港の印象を与えるのは、何といっても山下公園があるからだ。六甲があるからいいなどといわずに「港にも緑を」と私はいいたい。現状では外人観光客が神戸を素通りしてしまうのも無理はない。港の第一印象が悪いからだ。埋め立て地にも、計画中の人工島にもたっぷり緑地帯を作って、思わずひきよせられる港にするよう、市当局などをお願いしたい。

□ 随想三題 □

私と馬のつき合い

岡崎陽子 〈鞍も〉

幼少の頃、十六才まで私は香檀園のはづれの海岸で育った。土手の松林がそのまま庭に入り、そのうしろが草叢、砂原と続き防波堤、そしていつも蒼い透けるような海がひかえていた。昼下り、気候のいい時期になると、その白い砂原に茶、白、黒と人馬が入り乱れ輪になったりぐるぐる走ったりしていた。砂にめり込むボクボク沈む音がすると、欠かさず犬を連れて見に行った。

一度子供同志で遠くで眺め入っている時、何を思ったか、一頭の馬が凄く勢いで突進して来た。私たちは夢中で茂みに這いつくばった。嵐のように私たちを越えた時、白い大きな風が吹いたように思えた。まるでツエッペリンだと思った。この慌とした記憶はまるで絹糸のように交又していいよこぐらがる。そのうち太平洋戦争が始まり、月見草やかるかやが群生する草叢も、やがて畑となり、砂原

にもあまり目立つ遠出の馬の姿も見られなくなった。が、わが家の物置きに、将校の馬が時折り泊るようになった。

もちろん人間の将校も空いている室はいつも無条件で奉仕することになったらしい。

それでも私たち子供は大喜びで、夜が明けるのを待ちかね、弟と二人馬係りにひつついて、裸馬にのせてもらい、海へ馬を洗いに生かした。透明な光線を受けきらきら光る柔毛の間から私たちを見る



大きな目、私は真剣に馬になりました。いものだと思った。そのうち戦火は激しくなり地続きの砂原は高射砲陣地と化した。私の家の周囲も鉄条網が張りめぐらされ、要塞の一角に入ってしまった。リズムカルな蹄の響きにかわり、今度は毎日聞える怒声と罵声、食事時になると必ず、頭より高くお盆を捧げてご馳走を将校に運ぶ当番、豆粕しか配給のなかった当時、二階より毎日目下を移動するご馳走のお盆は唾涎の的だった。そうこうしているうちに、空襲が激しくなり、隣の砲門もどんどん開けるようになった。味方の爆風で目も鼻も口も砂だらけになる朝も夜もない生活が始まった。美しかった砂原も終戦と同時に今度はさばききれなくなった戦火の犠牲者の火葬場ともなったらしい。また軍の重要書類を山のように積み、ガソリンをかけて火を放つ元将校さんたち。

三間ほどあちこちで燃える炎が空をこがし、寝苦しい真夏の夜、雨戸をしっかりと閉じ、そのうちれるような臭気に冥福を祈った。

そして二十年、急激にふくれ上ったいろんな物に対し、私もおそるおそるうつつを抜き、生活にも疲れ痴呆状態になった今日、あの海も濃み白い砂浜も塵芥にま

みれ、一面に咲きはびこっていた
昼顔や、浜えんどうの一片もなく、
なだらかな砂丘にはぎっしりと家
が建ち並び、白い砂原でゆれ動い
ていた馬の姿もまるでおとぎの世
界のように遠くへ消えてしまっ
た。

久しく馬ともお目にかからな
ったこの頃、近くの大学運動場で
馬と出くわした時、私はたまげ
た。その大きな長い顔、凄いいな
なき。二十年の間に私の心の中で
私の馬はすっかり馬でなくなっ
てしまっていたらしい。〈洋画家〉

神戸は恋びと

山路 梓 〈書〉

神戸で生れ、六甲と御影で育っ
た私なのに、仕事の間が神戸とは
ほとんど無関係なのが少し残念な
気もする。しかし、考えてみれば
好きな神戸を仕事と切り離して大
切にとっておけることはぜい沢な
幸わせかも知れない。

かけひきとスモッグの街「大
阪」で仕事に疲れ、心が潤いを失

ったときよくフラリと目的なしに
神戸へ出かける。西宮北口で乗り
かえた阪急電車が岡本のあたりへ
さしかかると、私は乗り合わせた
人達が妙な顔をするほど、子供の
ように頭をめぐらし、おしまいに
は体までもねじまげて親しみ深い
山山を見上げ麓の家並みを眺め
る。——時時この景色を眺めなけ
れば私は息が続かないのです——
というような、まことに切実な、心

にしみ入るような眺めなのである

日曜日のひと気のない海岸通り
は気に入っている。親しい友達と
シャベリながら、突堤まで歩くこ
ともあるが、岸壁でつり糸をたれ
ている人の傍で暢気に座りこんで
しまったりする。

すぐの沖合いを舳がボンボンボ
ンと往きかつて、潮風に赤黒く染
まった男達がギッシリ……私と友
達の洋服の色彩を見つけて口笛を
ふき、何か叫ぶ。

「港のマリーと思っっているのよ、
キット」

そこで私たちも素直に手を振っ
てこたえる。ハダカの健康な心が
波の上で通い合い、生きているこ
との歓びを最も素朴な形で感じる
一瞬でもある。

早目の夕方、コラルキタノのバ
ーに親しい人とすわっていること

もある。たそがれる神戸の市街を
見降すように眺めると、新聞会館
の富士山のモザイク壁画がライト
にボウツと浮かびあがり、その
隅に時刻を告げる電光数字が小さ
く、またたく。

遠目のきく私は、その距離から
でも「今は五時七分」「ホラ、今
二十分に変ったでしょ」と言い当



てたりしながら、他愛もなく楽しい時間を過す。無意味な時間というものが近頃ますます好きであるしかし、大阪ではそうはゆかない。神戸なればこそその雰囲気なのだろう。

かなしいのはトリア・ロードのさびれようである。その昔、親和高女の生徒だった私は、三宮からトリア・ロードを通って、斜めに山手へぬけて通学したものだ。ある店のショウ・ウィンドウに、美しく、はらはらと薄い支那絹をこまかく手縫いで縫いあげた特別製のスリッパが、いつも飾ってあった。お嫁入りの時は、あのスリッパの色を揃えて一ダースは持っているこうと夢みていたのに、や々と大人になった時は戦争が始まっていて、美しい支那絹のスリッパなどはいずこへか、消え失せてしまっていた。

神戸は私の見果てぬ夢のような街である。大阪が働きものの亭主で、神戸は恋びとだと言ったら、私の気分が一番びったりするようである。

《書道家》

「この町の女」^{ひと}

直木太一郎

クラブムーンライト社長浜田富

栄さんの招きに応じて田中健一郎さんと一しょにオリエンタルホテルのロビーへ行くと、小原稚子さんと草柳大蔵さんがやって来た。

装苑一月号から「この町の女」を特集するための座談会だという。

なぜ神戸がそのへき頭に選ばれたのか。「女の流行はいまでも神戸から」という認識である。古くはアジア大陸、戦前はヨーロッパへ

「開られた明るい窓」であった神戸もすでに今日ではその実体を失っている。羽田や伊丹が空からの窓になっている。それでもなおかつ神戸が舶来流行のサキガケというならば、長年にわたる外来文化消化の伝統がしからしめている

のかも知れない。先頃草柳さんから装苑一月号がおくられて来た。そこにはよく神戸の特徴がとらえられている。

× ×

堀辰雄の小説「旅の絵」をひいて「神戸は汽笛の町」といっている。港が町の真中深く入りこんで

いるので、神戸のどこにいても船の汽笛の聞こえないところははない。かすかにふるえながら短く鳴ったというが、須磨塩屋の霧の海から夜もすがら断続して聞えてくる長い警笛のさけびは、どんな音楽よりも深く強く哀愁をそそるものである。

外来文化消化の一例として小原稚子の随筆「私のふるさと」の中の一節、

「一昨年の夏中私の家にアメリカの大学時代の親友が泊っていた。ある日神戸の町で彼女と買物をしていたら店員が日本語で彼女に話しかけてきたことがあった。彼女は面喰ってほかのウィンドウをのぞいていた私を呼びにきた。すると店員さんは私に「なんやこの外人は日本語あかんネ」といって意外そうな顔をした」

をひいて神戸では外国人が日本化しようと努力するのが普通であると説いている。大汗をかいて外国人に合わせようとする東京や大阪と違って、舶来文化がその生活文化とよく溶けあっている神戸、それには「神戸の色彩を考えて入れなければならぬ」という私たちの意見を受け入れている。神戸は白い町、六甲山脈の花崗岩のまぶしいほどの白い砂が波に洗われていた海浜にたてられた町である。山

は緑、海は紺碧、空まできれいに澄んでいる。このあざやかな色彩がガッチリ神戸の生活の背景となっている。こんなところでなければ舶来文化が根をおろしようがない。

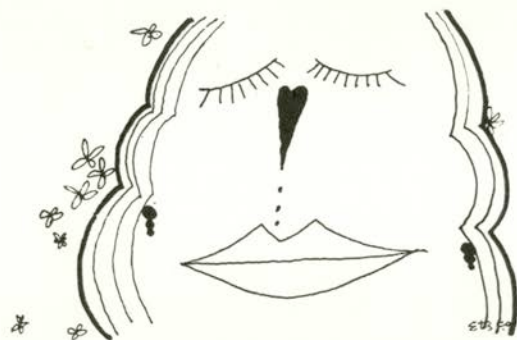
「物価は安いといえないが女の持物はたしかに良質で安い」と浜田さんは元町トーアロードから三宮センター街、さらに「さんちか」に続く神戸ショッピングの伝統を強調する。もつと言いたかったのはバーの安いこと、東京、大阪にくらべて三割四割におよぶ事実であらう。

× ×

神戸の町の女を語るにあたっておとすことのできないのは須磨と芦屋である。いずれも神戸のすぐれたベッドタウンである。須磨は遠く明治の御代に、芦屋は大正の時代にそれぞれできた住宅地、そこにはまず「須磨令嬢」ついで「芦屋マダム」が誕生したのであった。須磨令嬢には明治の匂いが残っていたが今はすでに老い去ってしまった。

現在の神戸の女は

「トーアロード元町生田筋と歩いて気がついたが母娘連れがじつに多い。これが神戸の特徴だ。母と娘の間にセンスのズレがないこと」「東京や大阪だと母親がヤボ



つたく着飾って娘はヤケにトップファッションを装っているのが相場だが」「神戸は母娘の間にお金のかけ方も色の使い方もあままり差がない。二人ともヤボでもなければゴージャスでもない」「自分で納得したものにしか手を出さない」

× ×

アホらしいという気が先に立つて神戸っ子はなかなか流行に飛びつかない。『007』に延長長蛇をつくったり、宝塚歌劇に徹夜の行列など気狂沙汰だと思っている。東京から来た人が「ラクに座れて見ちゃった」とアキれていたが、こちこそアキれる。もし神戸で行

列が見られたらそれは大阪の女の子、地方の女の子と割切っている
「学生でも神戸では進学するとすると四年制大学でほんとうにもっと勉強したいという気持ちからで、その意志がなければ良い家庭のお嬢さんでも高校卒でお嫁に行く。本人も周囲もそれをアタリマエとしている」と田中健一郎さん
「東京のオフィスガールはよく気がきいてキリキリ立働いているが神戸では皆オットリして物事にこだわらずお嫁に行くまでとノンビリしている。しかし自分を失うことは決してない」というのと一脈通ずるものがある。花街でも東京は今や歓楽のマスプロの場となってお客はベルトコンベアに乗せられて次々と絞られて行くが、神戸のそれはさびれてはいるがまだ彼女らの心中には情緒が残っている。これらは一つに住居が問題で東京の殆んどがアパート住いであるのに対してここでは多く自宅から通っていることに原因していると思う。

× ×

湊川新開地は東京の浅草のように雑然としている。

「ここは神戸じゃない。ただ日本であるだけだよ」の終辞がきいている。
〈神港倉庫KK社長〉



★★ある集い★★★

『その足あと』

声楽家グループ

ローゼン・クランツ

池本 道子

市来崎のり子門下生グループでつくっている「ローゼン・クランツ」は先生が数年前につけて下さった名前です。「バラの花輪」という意味で、バラにもいろんな花があり、道辺に咲く花、一輪咲きの花など色々あるのですが、先生は野心的な花はクライで伸よく手をつなぎ美しくのびてゆこうという願いをこめられているようです。私たちも大変この名前が好きでそんな伸び伸びと咲くバラになりたいときびしい練習にファイトを燃やしています。演奏会をもった活動も十年になり今イタリアオペラを衣裳をつけてやりたいとプランをねっているところ。

昭和三十三年毎日ホールで初の

演奏会を持ち、ここ数年間は四回にわたってモーツァルト・シリィズを勉強しました。「ワイガロの結婚」「コシ・ファントウツテ」「ドン・ジョバンニ」「魔笛」全部原語の演奏会形式でオーケストラ伴奏は京響。日頃の基礎が肝心といわれる市来崎先生の稽古はきびしく、またそれにこたえるようにメンバーの人たちもやるとなると、一つのことに一かんして集中して盛りあげ、オーケストラとあわせるときにはますます熱意が加わります。

林久美子は「椿姫や、魔笛の夜の女王」などを得意とする関西で貴重なコロラトール・ソプラノ。〈関西歌劇団〉。松本幸三は「ベルディのリゴレット女心の唄」のようなドラマチックな張りのある唄が得意のテノール(二期会)。池本道子は、ベルディのリードやブラームスの好きなアルト(二期会)。来年6月にリサイタルを開きます。

小松恵子はボエームのミミーのような可愛い軽い曲にむくソプラノ(二期会)。湊夫美子もリリックなソプラノでオペラをやりたいとのこと。(二期会)柳井弘子はアサヒ・フェスティバルの新人コンサートでブッチーニの「トスカ」を唄ったドラマチックソプラノ(二期会)。石川恵子もドラマチック・ソプラノです(二期会)。

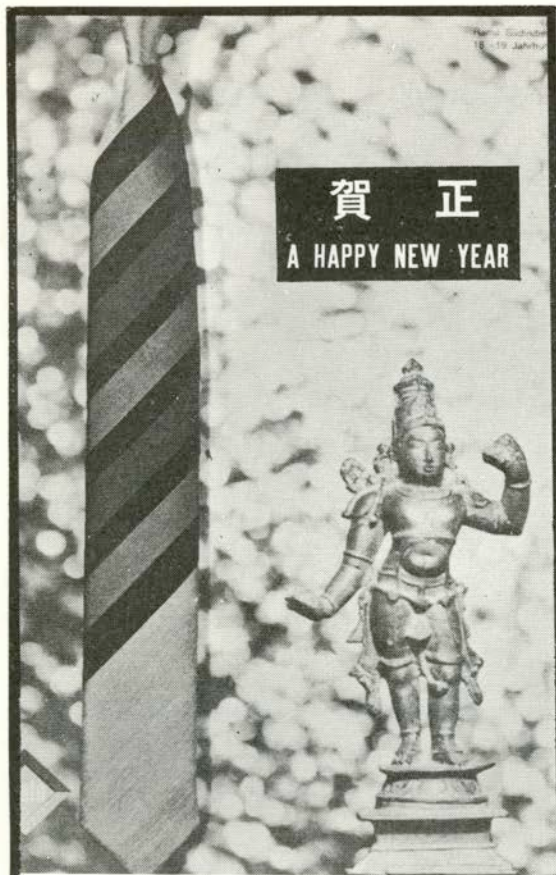
期会)。松尾明子は31回毎日音楽コンクールソプラノ部門三位入賞の実力派(二期会)。安江克子はリリック・ソプラノ(関西歌劇団)。東保は、関西歌劇団のテノールとして活躍する重要メンバーです。

これらメンバーは学芸大、相愛音大、芸大などの卒業生で関西歌劇団の主役や二期会の団員として活躍するなどファイターがそろっています。がそれにもまして「ローゼンクランツ」をささえる力は市来崎先生の熱心さだと思えます。先生も去年の十一月三十日に世界一の伴奏者ゼラルド・ムーア先生のピアノでリサイタルを開かれる意欲的な演奏ぶりでした。バラの花が枯れずに続いたのも先生の太陽のような力強さと暖たかさがあったからだとしみじみ感じます。

声楽家としてはきびしい先生もお忙しいのに稽古のときに手料理をして下さったり、おしゃべりの話もなさいますし、また気がるく下駄をつっかけておくって下さることもあって私たちには人間的な面での勉強もできるところが大変な魅力。

これからも人間的な深みのある花を声楽を通じて咲かせ続けたいと思います。(声楽家)

——グラビヤ7頁をご覧ください



ネクタイの

元町バザー

神戸×元町 TEL 031401・7031

北欧の銘菓

**ユーハイム
コンフェクト**

'66 A HAPPY NEW YEAR



バウムクーヘン
〈ピラミッドケーキ〉
クッキー
ムンデット
シモン
デビルドチーズビスケット
各種高級洋菓子



本社・工場 / 神戸市葺合区熊内町1丁目 TEL 22-1164・9865

熊内店 / (市立美術館隣)

神戸デパート店 / 長田区大橋五丁目電停前 TEL 61-1201~10

三宮店 / 三宮生田筋(階上喫茶室) TEL 33-7343・0156・4314

神戸 / 大丸店・阪急店・鉄道弘済会・三越店



賀正
1966

金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

あけまして
おめでとう
ございます
1966年 元旦



40年10月より開店・さんちか店
さんちか・スイーツタウン TEL 393455

神戸にそだって 70年



風月堂

元町3丁目 TEL 39 2412~5